校長室だより「新生チーム千代田西部小」 笑顔と夢に溢れ地域と共に歩む学校

令和元年8月28日 No11 校 長 實 松 清 之

さあ、2学期です。諦めない心を胸に！

2学期の始め、皆さんに、この話をしたくて…。これは、およそ35年前、オリンピックであった感動秘話です。アメリカのロサンゼルスで、「夏のオリンピック」が開かれました。ロサンゼルスは、夏になると日本と同じくらい暑くなります。その中で、42.195㎞を走りきるマラソンも行われました。

猛烈な暑さの中、ゴールを目指して走り続け優勝したのは、アメリカのジョン・ベノイト選手でしたが、それ以上に人々の心に残った選手がいます。それは、意識が遠のきながらもゴールインした、アンデルセン選手です。

あまりの暑さに途中でレースを止める選手も次々と出ました。アンデルセン選手は、ゴールのある競技場に入ってきましたが、明らかに様子がおかしいのです。右にふらふら、左にふらふら。そうです。熱中症になって、もう歩くことさえ大変な状況になっていたのです。その時です。見るに見かねた審判の人が、アンデルセン選手を助けようとしました。しかし、アンデルセン選手は、「来ないで」とその助けを振り切りました。もし、審判の人がアンデルセン選手に触れたら、アンデルセン選手は失格になるのでした。アンデルセン選手は、倒れては歩き、歩いては倒れながらも一歩一歩ゴールに向かいました。そして、とうとう倒れ込むようにしてゴール。最後まで諦めない姿に、観客は総立ちになり割れんばかりの拍手を送り続けました。

さあ、今日から2学期。私たちも大きな夢と目標を持ち、今日この時を精一杯生きていきましょう！

（始業式より）

毎日かあさん！

長い夏休みが終わりました。正直「早く学校が始まって欲しい」と思われた方も多いのでは(*^o^*)。今日からは、責任を持って学校で預からせていただきます。これまで同様、家庭と学校、パートナーとして子供の健やかな成長のために力を合わせていきましょう。

さて、突然ですが「毎日母さん」という漫画をご存じでしょうか。割烹着姿の元気なお母さんとやんちゃでおませな２人の子どもが織り成す、温かく、ユーモラスで、しかもしんみりとする家庭模様を綴ったもの。某新聞社で、週１回、何と16年間も連載された漫画のシリーズが数年前に完結。なぜここで終わるの？と尋ねた記者に、作者の西原理恵子さんは、子供が大きく成長し、「卒母」の時を感じ取ったのだと語ったそうです。

親子の関係が密？になりすぎて、子供の入社式にまで親が出席する（もちろんほんのごく一部でしょうが）時代、子供の自立はどうなっていくのか、日本の将来は大丈夫かと危惧する声も。反対に、ネグレクトなど、子育てすら放棄する社会現象が…。モノに溢れ、欲望に満ちた時代のせいでしょうか？

いやいや、そんな弱音を吐いていたらダメですね。教育・子育てこそ未来を創る唯一無二の大仕事ですから…。そんな時に、頭を過ぎったのが枠内の言葉。

乳児は、しっかりと肌を離すな
幼児は、肌を離せ、手を離すな
少年は、手を離せ、目を離すな
青年は、目を離せ、心を離すな

この言葉に出会ったとき、心が震える思いがしました。そして、子供を持つ親として、この言葉の意味どおりに接することができればと思い意識する毎日。家庭の役割、家庭力の必要性を改めて感じるこの言葉です。

子育てのヒントになれば幸いです(*^o^*)

【お知らせ】

本校のまちcomiメールでもお知らせしましたが、学校にはAEDを設置しています。設置場所は、事務室前の廊下です。万が一のためのAED。命を救うためのAED。勿論、使用することがないのが一番ですが･･･。ぜひ、頭の片隅に入れておいていただければ幸いです。